

自己不信

善川

「僕って僕？ここは現実か……？」
と重度の心配性の僕はこういう思考に至ることが稀にある。

これは小学5年生の話。

好きな人からラブレターをもらったが嬉しすぎてドツキリを疑ってしまう。

それくらい心配性な僕は今中学3年生。そして今は38度の熱を出し学校を休んでいる。原因は昨日雨が降っているのに友達と50m走をしたからだ。

次の日、朝起きると友達からメールが届いていた。「お前昨日学校休んでコンビニ行ってた？やめとけよ笑」

とメールが来ていた。もちろん僕は外に出るわけもない。

「出てないよ」
そう答えると

「でも、お前のこと見たで。そつくりさんかな笑。」
とたわいのない話をしていた。

次の日、僕は学校に忘れ物をしていたことに気づ

き学校へ行った。

「まるでホラー映画だな笑」

そんなことを思いながら学校へいった。

学校へ着くと誰もいない……なんて今日は日曜日だ。いなくてあたり前。びびりな僕は昼間に行ったので校舎は明るかった。

コツ……コツ……

ん？誰もいないはずなのに足音がする。足音の方を見てみると僕に似た人がいる。

笑いながらこちらを見ている。いや、あれは僕だ。そう気づいた瞬間僕の足は家へと向かっていく。が、だんだん意識がなくな……つ……て。

気が付くと僕はベッドにいた。スマホが鳴る。「お前昨日学校休んでコンビニ行ってた？やめとけよ笑」

あれ、この会話前もしたような。今日の日付は土曜日。体もすこしダルイ。

「僕って僕？ここは現実か……？」